



「昔から、漠然とだけど職人になりたいなどずっと思つていた」

会

り合わせの草鞋を履く木村敦さんは、宮城の特産品・白石温麺メーカーのきちみ製麺で営業、商品開発、企画、広報を担当するマルチプレーヤーだ。それながら、弥治郎系伝統こけし工人としても制作活動し、自ら販売。また自分の作品に限らず、先輩や仲間の作品の販路を、国内のみならず海外へ広げる役割も果たしている。

一体、どんなきっかけで今に至ったのか。木村さんに伺うべく、宮城県白石市を訪れた。

「どうぞ、お入りください」会社の玄関に迎え出てくれた木村さんは、明るい笑顔でインタビューに応じてくださった。個人的に抱いていた職人さんのイメージとはずいぶん違う。こちらの質問にもパツンと答えが返ってくる。会話が途切れることもなく、さすがは営業職、という印象。

木村さんの伯父は、伝統工芸し工人だ。そう聞くと、なるほどその環境なら、と思うが、木村さんは最初からこけしを呼んだ。

木 村さんはこの後、2015年の春前に伯父の佐藤英雄工人について木地を学び始め、2016年1月からはシデイゴを彷彿させる、青色を纏った特徴的なこけしが生み出された。斬新なアイディアと、若き匠から生まれた画期的なこけしは大きな話題となり、それまで伝統工芸に馴染みのなかった層にも大きな反響を呼んだ。

修行中の作品には胴底にきちんと製麺での広報活動キャラクターとして設定した「めんたろう」と署名をしていたが、2018年3月から正式に工人として自立することとなつた。

「自分自身として自由に感じる環境にいることで、とめどなくアイデアがあふれてくる」その笑顔は、伸びやかで、パワフルだ。

「こけしを『作らなければならない』という環境に身を置いてしまうと、全然作れなくなる。制約を受けたくない。作るも作らないも自由がいい」ともすれば、伝統工芸に関わる者として、わがままなこ

しに興味があつたわけではない。
「こけし工人を目指す決意をするまでには、3つのステップがあつたんだよね」
そのきっかけは、地元開催のこけしまつり（全日本こけしコンクール）での出来事だった。
なんとなく足を向けたこけしまつりの会場で、木村さんは故吉野稔弘工人の作品をたまたま購入した。故吉野工人は、当時、白石市の伝統工芸継承に係る育成事業で伯父の弟子となっていた方だった。
「買ったきっかけは、正直なところ、お付き合い程度にしか考えていないかったんだよねでも家に帰つてこけしを手に時間が有限だからこそ、自分で使い方を決めていきたい。会社員としての自分の時間も大切なものの、仕事は絶対に疎かにしないと、工人を目指して逆の考え方からすると、時間は有限だからこそ、自分自身の感性に従つて決めていいみたいと、木村さんは言う。

そして「伝統」という言葉に関しても独特な表現で想いを伝えてくれた。

「伝統って、何かの力を借りることで生み出すことができるとか、本来は考えられない形で無理に続かせていくうとするものではないんじやないかなと思つていて。やはり、シンプルに作品を手に取つてくださる方がいて、それが長い時間つながっていく。それで結果として、いつしか伝統という言葉を授けられるので

株式会社きちみ製麺
白石市本町46
TEL／0224-26-2484
○営業時間／壳店 9:00～17:00
味見処 光庵 11:00～14:15
○定休日／壳店 不定休
※12/30～1/1・1/4
味見処 光庵 木曜・第3金曜



修行中の作品には胸底にき
ちみ製麺での広報活動キャラ
クターとして設定した「めん
たろう」と署名をしていたが、
2018年3月から正式に工
人として自立することとなっ
た。

「自分自身として自由に感じ
る環境にいることで、とめど
なくアイデアがあふれてくる」
その笑顔は、伸びやかで、
パワフルだ。

「こけしを『作らなければな
らない』という環境に身を置
いてしまうと、全然作れなくな
る。制約を受けたくない。
作るも作らないも自由がいい」
ともすれば、伝統工芸に関
わる者として、わがままなこ

たときから決めているのもそこから来ているんだよね」

限られた時間の中だからこ
そ、製作に投じる熱量は
自分の感性に従つて決めてい
きたいと、木村さんは言う。

そして「伝統」という言葉
に関しても独特な表現で想い
を伝えてくれた。

「伝統って、何かの力を借り
ることで生み出すことができ
るとか、本来は考えられない
形で無理に続かせていくようと
するものではないんじやない
かなと思つていて。やはり、
シンプルに作品を手に取つて
くださる方がいて、それが長
い時間つながっていく。それ
で結果として、いつしか伝統
という言葉を授けられるので

The image shows two Kokeshi dolls against a plain white background. The doll on the left is a smaller, seated figure with a round head, black hair styled in two puffs, and a yellow sash. It has a simple, serene facial expression. The doll on the right is a larger, standing figure with a round head, black hair in two puffs, and a yellow sash featuring a large red floral pattern. This figure has a more detailed and expressive facial design with dark eyebrows, black eye makeup, and a small red dot on each cheek.